

平成 30 年度 四日市港管理組合当初予算の概要

1 当初予算編成の考え方

平成 30 年度当初予算は、地方公共団体を取り巻く厳しい財政状況を踏まえ、事業の選択と集中を図りつつ、「四日市港戦略計画(2015～2018)」の最終年度として、目標の達成に向けた取組を着実に推進することを基本方針として編成しました。

2 予算の規模

(単位：千円、%)

区 分	29年度当初予算	30年度当初予算	増 減 額	伸 び 率
一 般 会 計 (県 市 負 担 金)	6,727,430 (2,900,222)	5,444,633 (2,733,174)	△1,282,797 (△167,048)	△19.1 (△5.8)
港湾整備事業 特別会計	3,033,895	3,189,779	155,884	5.1
合 計	9,761,325	8,634,412	△1,126,913	△11.5

(1) 一般会計

一般会計の予算総額は 54 億 4,463 万 3 千円です。平成 29 年度当初予算額と比較すると 12 億 8,279 万 7 千円の減少となっています。

これは、国直轄事業負担金の減等により港湾建設費が 13 億 7,617 万円減少する一方、台風 18 号により被災した千歳町 2 号物揚場補修工事等により港湾管理費が 7,771 万 4 千円増加していることなどによるものです。

(2) 港湾整備事業特別会計

特別会計の予算総額は 31 億 8,977 万 9 千円です。平成 29 年度当初予算額と比較すると 1 億 5,588 万 4 千円の増加となっています。

これは、石原地区築堤工事等により建設事業費が 3 億 4,357 万 6 千円、公債費が 7,074 万 5 千円増加する一方、港湾施設維持補修費の減により管理費が 2 億 5,843 万 7 千円減少していることなどによるものです。

3 主な取組

四日市港管理組合は、「四日市港戦略計画(2015～2018)」に基づき、3つの視点に立った取組を中心に進めてまいります。

政策1 物流を支える港づくり

四日市港は、原油、LNG、石炭をはじめとした多くのバルク貨物やコンテナ貨物等を幅広く取り扱う総合港湾であり、今後も製造業を中心とした中部圏の産業を物流面から支えていく必要があります。

一方で、長い歴史を有する港であることから、老朽化に伴う施設の機能低下への対策も進めていかなければなりません。

このような認識のもと、背後圏の産業を支え、荷主企業や船会社から選ばれる港となるため、航路誘致や集荷対策といったソフト面と、港湾施設の機能強化や老朽化対応等のハード面との両面で取り組んでいます。

ソフト面では、荷主企業のニーズの集約・分析を進め、四日市港利用促進協議会を核とした官民連携によるポートセールスを展開するとともに、四日市港の利用拡大に向けた新たな補助制度を創設します。

ハード面では、臨港道路霞4号幹線の平成30年度完成に向けて事業の促進を図るとともに、老朽化した上屋の耐震補強等を行います。

また、港内で発生する浚渫土砂の受入先である石原地区において、防災対策等のため、築堤工事を行います。

<主な事業>

(一般会計)

- ・ 霞4号幹線整備事業 1,200,000千円
〔 国の行う霞4号幹線整備事業に対する負担金。
平成30年度は、仮設栈橋撤去及び海岸堤防・緑地等の復旧工事を行う。 〕
- ・ 霞ヶ浦地区24号岸壁(-12m)改良事業 153,000千円
〔 国の行う霞ヶ浦地区24号岸壁改良事業に対する負担金。
整備から30年以上が経過しており、安全な荷役作業や大型客船の入港に対応するため、予防保全事業を行う。 〕
- ・ 国補港湾改修事業(霞ヶ浦地区27号岸壁(-12m)改良事業) 175,000千円
〔 供用から40年以上が経過し、老朽化が進んでいる霞ヶ浦地区27号岸壁の上部コンクリート補修等の予防保全事業を行う。 〕
- ・ 社会資本総合整備事業(霞ヶ浦地区22号岸壁補修事業等) 103,500千円
〔 老朽化等により機能が低下した港湾施設の補修を行う。 〕

(特別会計)

- ・ **ポートセールス事業** 10,119 千円
〔 四日市港利用促進協議会への参画や国内外でのポートセールスを実施する。 〕

- ⑨・ **船会社集荷促進事業補助金** 20,000 千円
〔 外貿コンテナ貨物取扱量を一定量以上増加させた船会社を支援する。 〕

- ・ **基幹航路等コンテナ船寄港誘致事業補助金** 26,000 千円
〔 新たに四日市港に寄港する基幹航路等のコンテナ航路を開設する船会社を支援する。 〕

- ⑨・ **荷主企業四日市港利用支援事業補助金** 44,000 千円
〔 四日市港で新たに外貿コンテナ貨物を取り扱う荷主企業及び外貿コンテナ貨物取扱量を一定量以上増加させた荷主企業を支援する。 〕

- ⑨・ **2 C ・ 2 D 上屋耐震補強等改修工事** 116,874 千円
〔 四日市地区 2 C ・ 2 D 上屋の耐震性確保及び長寿命化のための整備を行う。 〕

- ・ **2 E ・ 2 F 上屋耐震補強等改修工事** 120,771 千円
〔 四日市地区 2 E ・ 2 F 上屋の耐震性確保及び長寿命化のための整備を行う。 〕

- ・ **石原地区築堤工事** 400,000 千円
〔 港内で発生する浚渫土砂の受入先である石原地区において、防災対策等のため、築堤（嵩上げ）を行う。 〕

政策2 安全・安心を支える港づくり

四日市港では、災害発生時には背後地の住民・企業や港の利用者の生命・財産を守り、被災後には速やかに背後地の復旧・復興を支えることができる港となることをめざし、取組を進めています。

特に、地震・津波・高潮等の災害から背後地の住民や企業を守るため、海岸保全施設の点検・補修等の適切な維持管理を行い、老朽化した施設や危険性が高い施設について、効率的・効果的な整備に順次取り組んでいきます。

また、重要国際埠頭施設等への不審者や不審物等の侵入を防止し、港湾活動の安全性の向上を図るための保安対策を確実に実施していきます。

<主な事業>

(一般会計)

- ・社会資本総合整備事業（富田港地区海岸事業） 262,500千円

富田港地区において高潮等による海水の侵入を防止するため、護岸補強を行い、海岸保全施設の保全機能の強化を図るとともに、豊栄樋門排水機場の排水能力を確保するため、老朽化が進む水中ポンプ4台を順次更新する。

平成30年度は、仮護岸となる鋼矢板圧入と水中ポンプ1台の更新を行う。

- ・改正SOLAS条約対策推進事業 84,398千円

四日市港内の重要国際埠頭施設等への不審者や不審物等の侵入を防止し、港湾活動の安全性の向上を図るため、警備保安業務や保安設備保全点検業務の委託等を行う。

(特別会計)

- ・上屋防潮扉補修事業 30,000千円

高潮対策等として四日市港内の上屋防潮扉の保守点検や修繕等を行う。

政策3 環境を守り、親しまれる港づくり

四日市港では、港内の水環境の保全活動を行うとともに県民・市民を対象とした身近な自然や生き物とふれあう生き物観察会の開催に取り組んでいます。

また、港内で発生する温室効果ガスを削減するため、陸上電力供給施設を整備します。

多くの県民・市民に訪れてもらえるよう、コンビナート夜景等の眺望やポートビル展望展示室の積極的活用を図るとともに、緑地・公園等の施設についても、地域住民や市民団体等に幅広い活用を働きかけていきます。

さらに、大型客船誘致に向け、四日市港客船誘致協議会に参画し誘致活動を行うとともに、寄港時の受入体制を充実・強化していきます。

末広橋梁等の歴史的・文化的資源を生かし、港とふれあう機会を拡充するイベント等を実施するとともに、老朽化した千歳運河沿いの物揚場を県民・市民に親しまれる交流空間にするための緑地整備を進めます。

<主な事業>

(一般会計)

- ・ 環境調査推進事業 5,359千円
〔 港内の水質等状況把握のため環境調査を行うとともに、藻場再生事業として実証実験を行っているアマモの生育モニタリング等を行う。 〕

- ・ イベント・交流事業 15,376千円
〔 多様な主体との連携による四日市港まつり実行委員会及び四日市港客船誘致協議会の負担金等を支出する。
また、外国客船寄港時の乗客の導線確保等の必要な措置を実施する。 〕

- ・ 社会資本総合整備事業（千歳運河緑地整備事業） 60,000千円
〔 老朽化の進んだ四日市地区千歳運河沿いの物揚場を景観等に配慮した緑地(交流空間)に整備するため、下部施設となる護岸工事を行う。 〕

(特別会計)

- ・ 陸上電力供給施設整備工事 15,000千円
〔 温室効果ガス削減のため、停泊中の船舶に陸上から電力を供給する陸上電力供給施設を2基（6施設）整備し、計4基（11施設）とする。 〕